財　務　部

第22回国有財産沖縄地方審議会開催される

平成12年11月6日（月）、第22回国有財産沖縄地方審議会が東村所在農林水産省種苗管理センター沖縄農場で行われ、独立行政法人に対する国有財産の現物出資について、委員への説明が行われました。独立行政法人とは、国の行政や事業の効率化、透明性の向上を図ることを目的として平成10年6月に成立した「中央省庁等改革基本法」により設立が規定されています。国が直接実施する必要はないが、民間に委ねた場合必ずしも実施されない可能性があり、かつ国民生活の向上及び社会経済の安定など、公共上の見地から必要と判断される事業を、国から独立した法人に運営を任せるというのが目的です。

また、平成11年4月27日「中央省庁等改革の推進に関する方針」により独立行政法人に対し政府は独立行政法人に対する金銭以外の土地、建物等の財産の現物出資を行うことができる旨決定され、県内では、全部で6省庁9機関が平成13年4月1日をもって独立行政法人化されることになっています。現物出資の規模は土地約91万7千㎡、建物約4万2千㎡などとなっており、われわれに身近な施設としては、渡嘉敷村所在国立沖縄青年の家や、石川市所在沖縄海員学校があります。

総　務　部

橋本龍太郎沖縄開発庁長官来沖

橋本沖縄開発庁長官が平成12年12月25日に仲村正治沖縄開発総括政務次官とともに就任後初来沖し、沖縄県知事及び沖縄県議会議長との会見、嘉数高台公園からの普天間飛行場視察、国立沖縄戦没者墓苑の参拝等を行い、同日夕、帰任しました。

沖縄県知事との会見の前に、沖縄総合事務局職員への訓示がありましたので紹介します。

橋本長官は、「沖縄開発庁としては、最後の長官を拝命したことを大変意義深く受け止めています。1月6日からは新しい体制として、仲村総括政務次官ではなく、仲村副大臣とコンビを組んで、皆さんの役に立つような仕事をしたいと思います。新しい体制になると、沖縄総合事務局の役割は今まで以上に調整権限等大きなものを受け止めていかなければなりません。21世紀を迎える沖縄、20世紀中に解決したかった問題がずいぶん積み残されており、新しい将来を考えるとき、非常に大事なこれからの1年になるだろうと思っております。自分でも全力を傾けていきたいと願いますが、そのためには皆さんに支えていただきたい。私も仲村さんも全力を尽くします。より明るい21世紀を沖縄県のために創っていきたい。力を合わせて行きましょう。」と述べられました。

TOPICS

経済産業部

ガス保安功労者の沖縄総合事務局長表彰式について

去る11月28日、平成12年度ガス保安功労者沖縄総合事務局長表彰式を執り行いました。

この制度は、日頃から保安管理体制が十分確立され、長期にわたり事故が発生していない事業所及び保安に関し特に功労のあった個人等を表彰することにより、保安意識の高揚を図り、もってガス保安の確保をより一層推進することを目的としており、昭和54年度以降表彰が行われています。

今年度は、ガス主任技術者の部門で「本部ガス株式会社社長・棚原憲弘」さん及び「ゆいな農業協同組合ガス事業所長・横田政秀」さんが受賞しました。

棚原さんは、ガス主任技術者として14年間無事故でガスの供給管理に従事したことを始め、社内での保安教育や簡易ガス協会の主催する緊急出動訓練時の企画立案に尽力したなどの功績が認められ、同じく横田さんも、ガス主任技術者として24年無事故を全うしたほか、社内での保安教育や、簡易ガス協会での技術委員を積極的に務めるなどの功績が認められたものとなっています。

両氏とも業界においては、指導的立場にある方であり、このことも高く評価されています。

農林水産部

「国営宮古土地改良事業」及び「緑資源公団営宮古区域農用地等緊急保全整備事業」完工式を挙行

国営宮古土地改良事業及び緑資源公団営宮古区域農用地等緊急保全整備事業完工式が、昨年11月15日に平良市内のホテルで、多数の関係者出席のもと盛大に挙行されました。

本事業は、受益面積8,160haの農地への農業用水の安定供給を図ることを目的に、昭和62年に国営宮古土地改良事業として着手し、平成元年度からは地下ダムの施行を農用地整備公団（現・緑資源公団）が継紹して2事業体制で推進してきました。

着工以来14年、638億円（予定）を投じ、事業所職員総数150余名が従事してきた大事業も平成12年度に完了を迎えます。

本事業により、世界に例を見ない大規模な地下ダムをはじめ、4流域（水源利用可能量2,400万　）の取水施設、ファームポンド6箇所、用水路（パイプライン）130km等を造成し、国営事業初の風力発電施設もモデル的に導入しました。

式典で、小山沖縄総合事務局長は、「宮古島有史以来とも言える水利用農業の展開が可能となり、地域の歴史が塗り替えられることは誠に感慨深い」と式辞を述べ、沖縄開発庁長官（若林沖縄開発事務次官代読）から、「このような新しい試みによる農業用水を、適切な維持管理により有効かつ効率的に活用され、地域の益々の繁栄につながることを確信している。」と挨拶がありました。

仲間宮古土地改良区理事長（城辺町長）は、謝辞の中で、「この歴史的かつ壮大な水利施設の機能を最大に生かし、地域産業の振興に寄与すべく全力を傾注していく所存である。」との地元の決意を述べられ、式典は盛会のうちに閉会いたしました。

開発建設部

「水源地と消費地の交流会」開催

去る11月28日（火）、「平成12年度水源地と消費地の交流会」が開催されました。

これは沖縄県内の水源地及び消費地の小学生を対象に、日頃何気なく使っている水に関して、水源地をより身近に感じ、水の大切さを再認識するということを目的としています。当日は天候にも恵まれ、水源地側から名護市の名護小学校、消費地側から南風原町の津嘉山小学校の4年生、合わせて217人が参加しました。

まず羽地ダムで、ダムの概要・役割の勉強や、工事状況の見学を行い、次に漢那ダムの見学を行いました。実際に水を供給している漢那ダムと建設中の羽地ダムとを比較することで、子供達はダムの機能について更に深く関心をもったようでした。

その後、宜野座村国際交流センターにて意見交換会が行われました。この意見交換会では各学校の紹介や「沖縄の水と私達とのかかわり」について研究発表が行われました。両校共に、工夫をこらした研究発表で、またお互い質問を出し合ったりと活発な意見交換が行われました。

今回、それぞれのテーマについて学習した成果が十分発揮でき、すばらしい実りある交流会になったと思います。

福地ダム建設の歴史を紹介した出版物「山原の大地に刻まれた決意」発刊!!

去る10月26日、当局の管理ダムである福地ダムに関して、高崎哲郎教授（帝京大学）の著された出版物「山原の大地に刻まれた決意」がダイヤモンド社から発刊されました。内容は、福地ダム建設の歴史を綴ったもので、昭和44年米国陸軍工兵隊により建設着手され、昭和47年5月15日の本土復帰という大きな節目を経て日本政府に承継され、日米両国の技術陣により幾多の困難を克服して、昭和49年の完成に至るまでの経緯を描いたノンフィクションです。

福地ダムは、沖縄本島の河川総合開発事業の第1号ダムであり、7ダムが完成した現在もなお、県内最大規模を誇り、県民の水道用水供給等に大きな役割を果たしています。本書は、沖縄におけるダム建設行政及びダム管理行政に対してさらなる理解を深めて頂くために大変意義のある出版物になるものと大きく期待されております。

本誌は、県内主要図書館で閲覧できるようになっておりますので、是非、本書をご一読いただければ幸いです。

億首ダム建設に伴う損失補償基準に関する協定書調印式を挙行

「億首ダム建設に伴う損失補償基準に関する協定書調印式」が、去る11月27日（月）、金武町立中央公民館において関係者約80名が出席する中、小山沖縄総合事務局長と伊藝地主協議会会長との間で、沖縄県知事と金武町長を立会人として執り行われました。

本調印式は、損失補償基準について、かねてより当局と地主協議会との間で、土地価格等の協議を重ねた結果、合意に至り挙行されたものです。

小山局長は調印式のあいさつの中で、「県内における水の安定供給を確保するための施策を計画的に進める必要性」と「公共事業における用地の確保の重要性」等について述べるとともに、億首ダムの完成に向け、関係機関のなお一層の支援と協力を要請しました。

今回の調印により、今後億首ダムの用地買収が本格化することになります。当該事業の用地概要は、地権者数435名、取得予定面積80ha、用地費及び補償費約90億円を見込んでおり、平成15年度までに用地取得を完了する予定です。

TOPICS

運　輸　部

八重山地区交通アドバイザー会議の開催について

運輸部は、12月7日に石垣市において「八重山地区交通アドバイザー会議」を開催いたしました。

交通アドバイザー制度は平成4年に創設された全国的な制度であります。

今回は八重山地区全般の公共交通機関（陸上、海上、航空）に係るサービスについて、沖縄県立芸術大学付属研究所長（教授）の波照間永吉氏を座長とし、通学者、通勤者、高齢者、障害者、主婦等それぞれの御立場から御発言いただける8名の方々をアドバイザーに委嘱し、バリアフリー化の推進を始め、交通サービスの向上（路線網の充実、運賃の低減、施設の充実等）に対する活発な議論をいただいたところであります。

この会議で出されました御意見等につきましては、できるだけ今後の交通施策に反映させていくこととしています。

開発建設部

「国立組踊劇場（仮称）起工式典」を挙行

平成12年12月12日（火）、関係各位約120名の方々をお招きし、浦添市小湾の建設地において国立組踊劇場（仮称）の起工式典が厳かに挙行されました。

式典では、小山沖縄総合事務局長の式辞を始め、来賓の方々の挨拶や祝辞を頂いた後、来賓等12名による鍬入れ式が「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ」の掛け声とともに、力強く行われました。引き続き国立組踊劇場建設支援会による組踊（萬歳敵討（マンザイティチウチ）より）が上演され、招待者の方々に組踊の片鱗にふれていただくとともに、組踊を始めとする沖縄伝統芸能への理解を更に深めて頂きました。

平成15年の完成を目指し、大成・戸田・仲本工業特定建設工事共同企業体による建設工事が本格的に始まります。

「沖縄の道路」写真コンテスト表彰式

「沖縄の道路」写真コンテストは、道路の果たすいろいろな役割を県民の方々に理解して頂き、併せて道路愛護思想の普及を図るため、沖縄総合事務局開発建設部主催のもと平成4年度に第1回目のコンテストが行われ、今回で第9回目を迎えました。

応募者も第1回目には30名で74作品でしたが、回を重ねる毎に増え、今回は159名による421作品の応募がありました。

去る10月25日に沖縄県写真協会会長外8名の審査員による審査会が行われ、厳選な審査の結果、最優秀・優秀作品を含む入賞作品22点を選出し、その中から道路カレンダーの各月を飾る12作品を選考しました。

11月22日にかりゆしアーバンリゾート那覇において、当局の橋本次長を始め多数の出席者のもと、表彰式が執り行われ、橋本次長から入賞者に表彰状及び記念品が授与され、入賞作品について沖縄県写真協会会長から講評が行われました。

また、12月11日から15日まで県庁1階県民ホールで入賞作品を掲示しました。